

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 06-012
 担当 長谷川
 内線等 258

PDCA	事務事業名	自動車管理事業	部課等名	総務部 財政課 管財担当		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第6章 自立した地域経営のまち 節： 第1節 行財政運営とサービスの向上 基本施策： 2. 財政運営 単位施策： (2) 効率的な財政運営 個別施策： ②予算編成手法の見直し				
	根拠法令等	—				
	対象・目的	共用自動車として一括管理することで車両台数の適正化を図り、稼働率を向上させる。 また低燃費車へ更新することによって経費の節減を図る。				
	目的を達成するための手段・活動内容	共用自動車を一括管理する。				
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
	①共用自動車管理台数	58	57	55	台	
	事業費	13,305	15,891	14,530	千円	
	人件費	3,806	3,773	3,807	千円	
	総事業費	17,111	19,664	18,287	千円	
	活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
	①共用自動車1台あたりの年間使用燃料費	76	86	74	千円/台	
	②共用自動車1台あたりの年間維持修繕管理費	62	75	96	千円/台	
	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
	①燃料1L当たりの平均走行距離(全車)	実績値 11.0 目標値 11.7	11.5 11.7	12.5 11.7	km/L	
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性	効率性		
	①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
	②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない
A 課題解決のための目標	事業の評価・課題	B 老朽化し燃費の良くない車両を計画的に更新する際に、低燃費、低排出ガスの車両を選択し、導入することで、1台当たりの燃費を向上することができた。 また、市外出張など長距離用としてハイブリッド車を優先的に使用することを職員に呼びかけたことで、全体の走行距離におけるハイブリッド車の割合が、前年度と比較すると、15.41%から17.76%へ向上した。 これらにより、燃料1リットル当たりの平均走行距離が向上し、目標を達成することができた。				
	今後の事業の方向性	現状維持 今後も市販車の中でも特に低燃費・低排出ガスな車両を、老朽車両更新時の車両購入契約の仕様等で指定することにより導入を進め、市外出張にはハイブリッド車を優先的に使用することを職員に呼びかけ、高い利用率を継続することで、環境に配慮した運用を行う。 また、運転時のエコドライブ実践に係る職員への呼びかけや、不要な荷物を搭載しないよう啓発するとともに、車両の不具合の早期発見、早期対応を推進すること等で燃費の悪化を防ぎ、成果指標の達成に努める。				
令和2年度の目標	成果指標	目標値	単位			
	①燃料1L当たりの平均走行距離(全車)	11.7	km/L			